富樫　均（とがし ひとし）の自己紹介

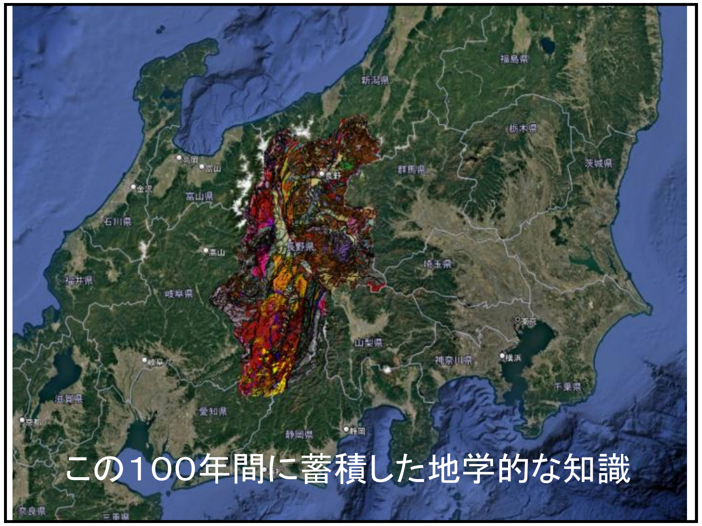
◆生まれ：1959年1月山形県鶴岡市（高校まで）
→信州大（7年）→東京（11年）→信州へ

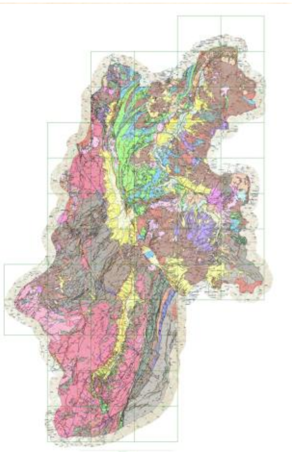
◆住まい：飯綱町黒川（在住1997～）に住み２８年

◆仕事：県環境保全研究所自然環境部（地形・地質）
いいづな歴史ふれあい館（学芸員・館長）・県SSHコーディネーター・
技術士事務所「地久学舎」開設
主な内容：長野冬季五輪と自然保護・里山保全・全県地質図編纂・
地学遺産・飯綱町の文化財、食文化、水資源の連続企画展開催

◆興味・関心：自然の成り立ちと人の暮らし
登山とBCスキー・俳句も詠みます

2



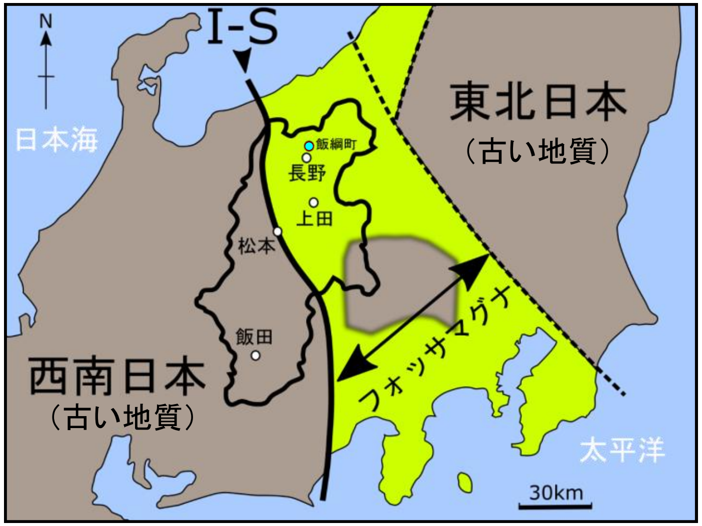

長野県地質図活用普及事業研究会が編纂した
1/5万長野県デジタル地質図(2015)

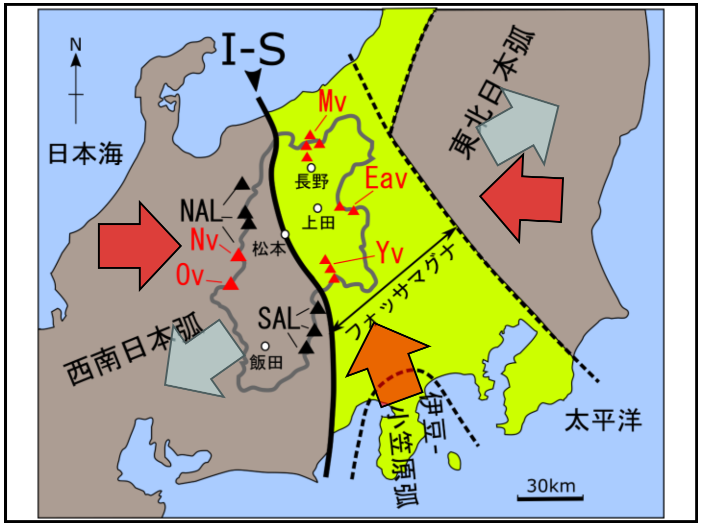
五無斎保科百助の長野県地学標本 （信濃教育博物館蔵）

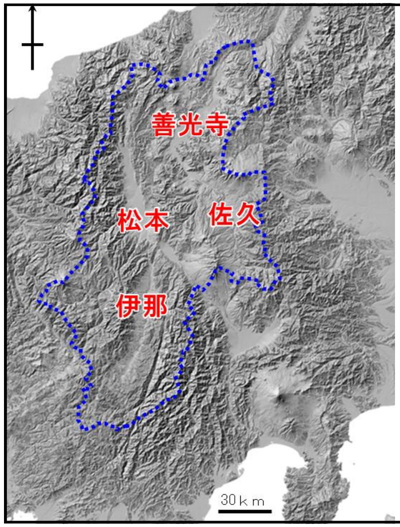
〽信濃の国は十州に が意味すること

- 十州に接することにも意味がある
- 中部地域が本州でもっとも幅広い
- 日本列島は世界規模の変動帯（隆起帯）
- 隆起する日本列島の核心部にある長野県❢

〽境連ぬる国にして
聳ゆる山は　（いや）高く
流れる川は　（いや）遠し







四つの平

松本 ♩.♪♩♩

伊那（谷） ♫♫

佐久 ♩♩

善光寺 ♩.♪♫♫ 𝅗𝅥.𝄽

- 多くの人々の生活場
  田畑と街と地域文化
- 地域バランスに配慮した
  紹介順と快いリズム

英雄譚に秘められた第三の地形要素

木曽義仲の侵攻ルート（「長野県史通史編」の図を簡略化した）

段丘・扇状地・火山麓扇状地

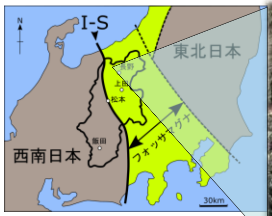
木曽義仲最後図（最上義光歴史館蔵、部分）

古代信濃は馬産の地

日本在来種の木曽馬（開田高原）

〽海こそなけれ物さわに 万ず足らわぬ事ぞなき

海だけはないが、物は豊富で足りぬことなし



シナノホタテ（戸隠地質化石博物館蔵）

じつは、海の記憶もしっかり残る信州です❢

県歌「信濃の国」の魅力と新しさ

- 全県を俯瞰する科学的観察眼
- 地勢から偉人や産業までを容れる懐の深さ
- 県内地域バランスへの細やかな配慮
- 歴史を尊び 、かつ 未来を志向する姿勢
- 今も190万県民に浸透する歌の力

12